

## 2023年度

科目名称	基礎整復学
授業コード	BH151
英語名称	Fundamental reposition by Judo 4
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	二神 弘子 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	筋、腱、末梢神経の解剖学、生理学、運動学的な基礎知識を元に、損傷の概説、症状、治癒機序、初期処置について学ぶ。筋、腱、末梢神経損傷の特徴を理解して、2年生以降に開講される各論および卒業後の臨床のための基礎を構築する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師・鍼灸師の教員が整形外科、鍼灸接骨院での軟部組織損傷の施術経験を活かして、柔道整復学の基礎理論である筋、腱、末梢神経の軟部組織損傷の総論について講義する。
到達目標	<p>・ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」ことを実現するために、本科目ではカリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」ことを目的とする。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各軟部組織の解剖・生理学・運動学的特徴、損傷の概説、症状、治癒機序、治療法原則について説明することができる。</li> <li>・各軟部組織損傷について理解し、各論の理解、および臨床応用へと発展させることができる。</li> </ul>
計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス、医療の倫理、運動器系と運動の仕組み、軟部組織損傷の初期処置</li> <li>2) 筋損傷 (1) 筋の構造と機能</li> <li>3) 筋損傷 (2) 筋の補助装置、神経、脈管、筋収縮の仕組み</li> <li>4) 筋損傷 (3) 筋線維の種類、筋損傷の概説、筋損傷の分類</li> <li>5) 筋損傷 (4) 筋損傷の分類、筋損傷の症状</li> <li>6) 筋損傷 (5) 筋損傷の治癒機序、予後、初期処置の原則</li> <li>7) 運動器系と運動の仕組み、軟部組織損傷の初期処置、筋損傷のまとめ</li> <li>8) 腱損傷 (1) 腱の構造と機能</li> <li>9) 腱損傷 (2) 腱損傷の概説、腱損傷の分類</li> <li>10) 腱損傷 (3) 腱損傷の分類、症状、治癒機序、初期処置の原則</li> <li>11) 末梢神経損傷 (1) 末梢神経の構造と機能</li> <li>12) 末梢神経損傷 (2) 末梢神経損傷の概説、末梢神経損傷の分類</li> <li>13) 末梢神経損傷 (3) 末梢神経損傷の分類、末梢神経損傷の症状</li> <li>14) 末梢神経損傷 (4) 末梢神経損傷の症状、治癒機序、初期処置の原則</li> <li>15) 腱損傷、末梢神経損傷のまとめ</li> </ol>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を中心に教科書および映像資料を利用しながら講義を行う。</li> <li>・授業回ごとに振り返り課題を提示し、授業内容の理解を深める</li> <li>・第7回 (第1～6回講義分)、第15回 (第8回～14回講義分) にはまとめを行い、各範囲の理解度の確認と補完を行う。</li> </ul>

## 2023年度

能動的な学びの実施	・復習のための課題を提示して、自習のガイドラインとする。
授業時間外の学修	予習：講義の内容またはキーワードに関して基本的な理解を得る。 復習：課題を行うほか配布資料や授業中のメモをまとめる。 合計で60時間以上の学修を行う。
教科書・参考書	教科書：柔道整復学理論編（全国柔道整復学校協会監修、南江堂）、配布資料 参考書：授業内でその都度紹介する。
成績評価方法と基準	成績評価基準：到達目標に達しているかどうか 成績評価方法： ・課題（30%）、試験（70%：まとめテスト20%、単位認定試験50%）による。 ・評価の条件は全体の2/3以上の出席とする。
課題等に対するフィードバック	・提出された課題について解答解説を行い、内容は次回以降の授業に反映させる。
オフィスアワー	Campus Square参照
留意事項	・軟部組織損傷は単独でも起こるが、骨折や脱臼時にも必ず合併する。本講義は柔道整復師が扱う外傷の中心となる知識のひとつであり、すべての各論および臨床の基礎となる重要な科目である。卒業後の臨床に直結する科目なので積極的に取り組んでいただきたい。 ・シラバスの変更についてはその都度講義内で連絡する。 ・出席は毎回指定座席への着席およびデジタルカードチェックにより確認するが、授業内提出を実施したときはその提出状況を優先する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・オンライン授業と課題提出を行う。 ・出席確認は、オンライン授業実施回は授業出席と課題提出の両方で出席とする。課題提出のみの場合は課題提出をもって出席とする。  成績評価方法と基準 成績評価基準：到達目標に達しているかどうか 成績評価方法： ・授業ごとの課題提出（50%）、期末試験（50%）による。 ・期末試験は対面により行うがウイルス感染状況などにより変更する場合もある。 ・評価の条件は全体の2/3以上の出席とする。